

早稲田塾は、大学入試改革に向け、 全12校舎ますます進化した指導内容で 次世代のリーダーを育成します。

2020年の改革に向けて、大学入試はすでに大きく変わり始めています。

従来の「知識」のみを問う内容から、一人ひとりの個性や志、経験や活動実績を見る「人物重視・多面評価」の内容へ。

たとえば早稲田大学では、2018年度から、センター試験とAO入試のドッキング形式で行われる「新思考入試（地域連携型）」をスタート。さらに2019年度からは、社会科学部で、英語資格が必須の上、小論文（日本語）と提出書類で審査する「グローバル入試」を導入します。

そのほかの大学を見ても、問われているのは、これまでの「基礎学力」に加え、「論理的思考力」「創造力」「課題発見力」など、国際社会で活躍する上で必要となる力ばかりです。

こうした力は、従来の教育のみでは身につけません。

多くの人と出会い、自ら考え、主体的に学び、見聞を広げていく必要があります。

早稲田塾では、多彩なカリキュラムで、これからの入試で問われる力を鍛えていきます。

大学教授・有識者とのコラボレーションによる「未来発見プログラム」は、海外研修、各地域へのフィールドワークを通して、大学入学後の学びにもつながる「志」と、多角的な視野、リーダーシップを育成。

驚異的な合格実績を生み出している「AO・推薦入試特別講座」、4技能を総合的に鍛え英語資格試験対策にも最適な「英語特訓道場」、文章力・表現力を養う「論文系講座」、そして、主体的・論理的にものごとを考え、発信するために必要な「基礎学力」と飛躍的な「得点力」を身につける「東進講座」など、早稲田塾のカリキュラムは、新しい大学入試に完全対応しています。さらに、ここで身につける力は、就職活動や社会人となっても必ず役立つ「一生モノの力」につながります。

今後は12校舎に早稲田塾の持つ全てのリソースを集約し、東進グループの一員として、他塾にはないオリジナルカリキュラムを強力に進化させ、国際舞台にはばたく次世代のリーダーを育てていきます。

